

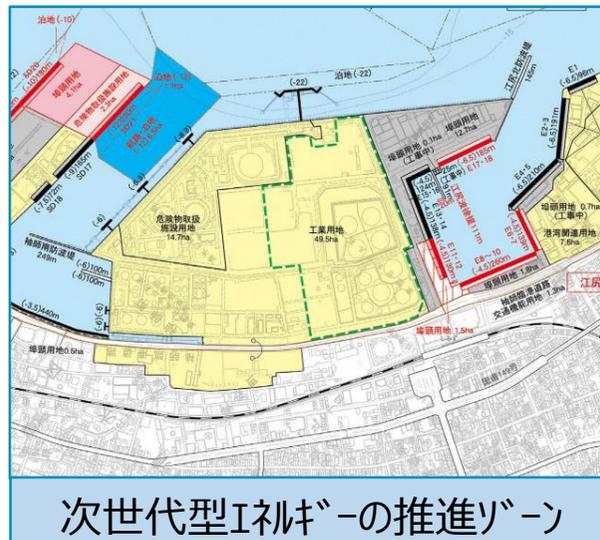
清水港 港湾脱炭素化推進計画
【概要版】

令和6年3月
静岡県（清水港湾管理者）

1. 基本的な方針

(1) 港湾の概要

- 「国際拠点港湾」及び「国際旅客船拠点形成港湾」として、重要な役割を担っている。
- 中部圏の物流拠点・人流拠点である清水港は、カーボンニュートラルに向けた次世代エネルギーのニーズは非常に高い。
- 清水港港湾計画改訂（2021年3月）では、袖師地区に「次世代型エネルギーの推進ゾーン」を位置付け、水素・燃料アンモニア等の次世代エネルギー拠点の形成が計画されている。
- 静岡市は、2021年7月に脱炭素社会の実現に向け、グリーンイノベーションを通じた経済と環境が両立したまちづくりを進めていくため、「脱炭素社会に向けた官民連携協議会」が設置した。
- 2022年4月に、清水駅東口エリア、日の出エリア等が脱炭素先行地域として選定され、CO2排出実質ゼロに向けた取組みに関する検討が活発化している。



1. 基本的な方針

(2) 計画の対象範囲

○対象範囲は、官民が連携し、港湾という場を効果的に利用することによって、脱炭素化を促進しようとする以下の取組とする。

- ・ターミナルにおける脱炭素化の取組
- ・ターミナルを経由して行われる物流活動に係る取組
- ・港湾を利用して生産・発電等を行う臨海部に立地する事業者の活動に係る取組
- ・ブルーカーボン生態系等を活用した吸収源対策の取組 等



＜清水港港湾脱炭素化推進計画の対象範囲＞

(3) 取組方針

① 温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化に関する取組

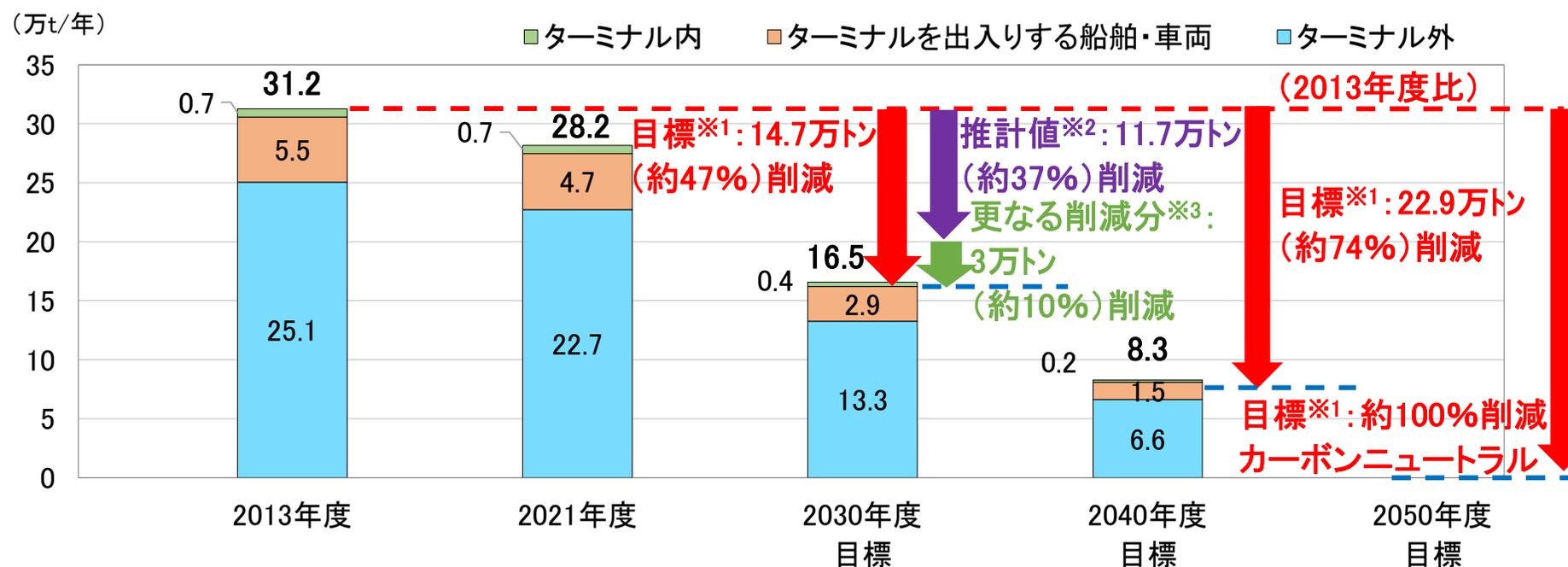
- ・ 貨物取扱拠点の集約による **物流効率化** や港湾 **荷役機械の低炭素化・脱炭素化**、ターミナル内の **省エネ化** を促進
- ・ 再生可能エネルギー由来の **CO₂フリー水素の製造・供給** による **グリーンモビリティ** を推進
- ・ 太陽光発電設備の設置による **マイクログリッドの構築**

② 港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する取組

- ・ 水素や燃料アンモニア等の次世代エネルギー拠点を形成するため、**受入環境を整備**
- ・ 既存のインフラを利用した「**e-methane (e-メタン)**」の利用を推進
- ・ 次世代エネルギーの **サプライチェーン構築** と **輸送手段の確保・整備**

2. 港湾脱炭素化推進計画の目標

KPI (重要達成度指標)	具体的な数値目標		
	短期 (2030年度)	中期 (2040年度)	長期 (2050年度)
KPI 1 CO2排出量	16.5万トン/年 (2013年比47%減)	8.3万トン/年 (2013年比74%減)	実質0トン/年
KPI 2 低・脱炭素型荷役機 械導入率	40%	70%	100%



※1: 「第4次静岡県地球温暖化対策実行計画 (R4.3)」を基に本協議会で設定した削減目標 (KPI 1)

※2: 対象範囲の立地企業へのアンケート・ヒアリング調査を基に設定した推計値 (個別企業の削減目標を参考とした)

※3: 現時点で想定される削減量 (推計値※1) に加え、2030年度の目標値47%達成に向けて、必要となる削減量

3. 港湾脱炭素化促進事業及びその実施主体

(a) ターミナル内

- ・ 清水港新興津地区国際コンテナターミナル遠隔操作RTG導入事業
- ・ 荷揚げロケーション・荷積プランニングの最適化

(b) 出入り船舶・車両

- ・ 低環境負荷型業務艇の導入
- ・ トラックtoシップによるLNG燃料船へのバンカリング※

(c) ターミナル外

- ・ 太陽光発電および蓄電池の導入 (PPA事業)
- ・ ポンプ及び変圧器の省エネ化・高効率化
- ・ フォークリフトの電動化
- ・ CO2フリー電気の購入
- ・ 緑地施設整備事業
- ・ ブルーカーボン(藻場)の造成・保全
- ・ 地域の再エネ自給率向上やレジリエンス強化を図る自立・分散型地域エネルギーシステム構築支援事業※
- ・ 静岡市における太陽光発電自家消費支援事業※



- ◆ **削減事業**：温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化に関する事業
- ◆ **貢献事業**：港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業

※の事業は「港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業であるため、下表のCO2削減量には含まない。

港湾脱炭素化促進事業によるCO2 排出量の削減効果

項目	(a) ターミナル内	(b) 出入り船舶・車両	(c) ターミナル外	合計
①：CO2排出量 (2013年度)	0.7万トン	5.5万トン	25.1万トン	31.2万トン
②：CO2排出量 (2021年度)	0.7万トン	4.7万トン	22.7万トン	28.2万トン
③：2021年度からのCO2削減量	0.05万トン	0万トン	0.09万トン	0.14万トン
④：2013年度からのCO2削減量 (①-②+③)	0.02万トン	0.8万トン	2.4万トン	3.2万トン
⑤：削減率 (④/①)	3.0%	13.8%	9.7%	10.2%

○今後、脱炭素化の取組の具体化に応じ、港湾脱炭素化推進計画を見直し、港湾脱炭素化促進事業へ追加していくことによって、目標に向けて削減率を高めていく。

